

# ふるさと再発見

## ～重源上人の里 みてある記～

がちりんじ

### (二) 月輪寺の薬師堂

県下最古の木造建築物といわれている「月輪寺薬師堂」は、文治五年（1189）俊乗房重源上人が、時の太政大臣藤原兼実の協力を得て、旧串村清涼寺にあったものを、この地上村字蔵場に再建しました。

東大寺再興のため徳地のそまやま 杉山に入り、まず安養寺を建立して用材採取の拠点となし、鯖河内の山奥に入り、中谷原から三谷へ、そして清涼寺へと巨木良材を探索するうちに、推古十七年（609）に建立されたという清涼寺の荒廃した伽藍がらんを発見され、そこにあった薬師如来や十二神将等を拝持して、月輪寺に移し一字いちじうを建立し安置されたということです。



月輪寺薬師堂

薬師堂は、桁行五間、梁行四間、寄棟造りの茅葺で、カンナがなかった時代の建物で、素朴な簡素ではあるが、均整の取れた、鎌倉時代の質実剛健な気風がよくあらわれた、国の重要文化財であります。堂内には、中央に重要

文化財の厨子があり、その中に秘仏の本尊薬師琉璃光如来を安置しています。

薬師如来は、お釈迦さまの救済活動を具現した仏さまで、東方の浄瑠璃世界の教主です。十二の大願を起こし、人々の災難を救い福德を与え、身と心の病を治すなど、利益を施し人間苦を救済されます。

須弥壇しゆみだんの左右には、持国天、増長天、広目天、多聞天の四天王が安置され、仏界の東西南北を守護し、仏法きえに帰依する人々を守護しています。四天王と並んで聖観音菩薩立像が安置され共に県指定文化財です。そのほか釈迦如来座像や薬師如来の眷属十二神将など多くの尊像が安置されています。

月輪寺の寺号は、藤原兼実公を俗に「月の輪関白」と称していたことによります。

因みに、薬師堂の西にある西村の公民館は、重源上人が建立された極楽寺跡で、東の薬師堂と西の阿弥陀如来の極楽寺が相対して建立されていたもので、西村公民館には、阿弥陀如来が現在も安置されています。

(法光寺 東堂 松尾宗茂)